「自衛官募集」イベント？？

このところ金山の名古屋都市センターを利用することが多い。都市計画やまちづくりの資料や雑誌が豊富であり、貴重な「仕事場」となっている。地下鉄から「金山総合駅連絡通路橋」（もう少し親しみやすいネーミングを？）を歩くと、金山ぐるりタイムトンネル 2014 が行われていた。「なごや子どもまちかど文化プロジェクト」というイベントだそうで、夏休みということもあり都市センターなども含め、親子連れで賑わっていた。

先月末、同じ場所で「自衛官募集ポスター―デザインコンテスト」というイベントが行われていた。主催は自衛隊愛知地方協力本部となっていた。「いま　君ができること」というキャッチコピーの作品が展示され、どのポスターがよいかを審査するイベントのようだ。あるポスターの説明には、「日本の為に自分は何が出来るのか」と考える若者と、「日本の為に君のような若い力が必要なんだ」と説明する自衛官を表現したと解説してあった。

子供や青年たちがポスターを見たり、コンテストに協力していた。このイベントがどのように自衛官募集につながるのだろうか。

集団的自衛権の行使容認が閣議決定されてから、自衛官募集にも力が入れられているそうだ。今回のイベントも、その一環だろうか。

雑誌「世界」（岩波書店）８月号に、東京新聞論説兼編集委員の半田滋さんが「他衛の戦争に駆り立てられる日本人」という論文を書いている。そのなかで「イラク派遣と自衛隊から消えた幹部候補生たち」として、自衛隊と自衛官の動向をリアルに伝える。

陸上自衛隊幹部は「ただでさえ全国の駐屯地では舞台から逃げ出す隊員が絶えない」という。米国がイラク戦争に踏み切った 2003 年から、若者が防衛大学校や自衛隊から去る傾向が目立つ。06 年は実に 32.6%の若者が去ったことになる。集団的自衛権の行使容認の影響が注目される。

集団的自衛権というけれど、「自衛権」というより米国のための「他衛権」といった方がよい。誰のために？何のために？　半田さんの『日本は戦争をするのかー集団的自衛権と自衛隊』（岩波新書）も鋭く切り込んでおり示唆に富む。

（2014 年 8 月 5 日）